明治安田

2026年度
第2四半期(上半期)報告
説明資料

2026年11月24日

明治安田生命保険相互会社

MY Mutual Way 2030

目次

明治安田

Ⅰ.	２０２６年度 第２四半期（上半期）報告のポイント	P.2
Ⅱ.	明治安田グループの業績	P.3
Ⅲ.	明治安田単体の業績	P.9
Ⅳ.	スタンコープ社・バナーライフ社の業績【参考】	P.17
Ⅴ.	業績見通し	P.21
Ⅵ.	「MY Mutual Way Ⅱ期」(2024-2026年度) 経営目標の進捗状況	P.22

Ⅰ．２０２６年度 第２四半期（上半期）報告のポイント

明治安田

グループ保険料（除く再保険収入） **2兆4,239億円**	**前年同期差　：　717億円増（+3.0%）** • 明治安田単体における円貨建一時払養老保険の販売が好調なことや、海外保険事業におけるバナーライフ社や、オールステート社の団体保険事業の買収効果により増収
グループ業務利益（注） **4,351億円**	**前年同期差　：　1,049億円増（+ 31.8%）** • 明治安田単体における運用関係損益の増加、海外保険事業におけるバナーライフ社や、オールステート社の団体保険事業の買収効果により、 過去最高値を更新
グループＥＳＲ **202.9%**	**前年度末差　：　5.8ポイント減** • 内外金利上昇等の影響により前年度末から低下したものの、引き続き高い水準を維持
2026年度 業績見通し	• グループ保険料は「増収」の見通しを維持。グループ業務利益は「横ばい」から「増益」の見通しに変更

（注）「グループ業務利益」は、明治安田単体の基礎利益から標準責任準備金の積み増し・戻し入れの影響を除いた単体の業務利益に、連結される子会社および子法人等ならびに持分法適用の関連法人等のキャピタル損益等を控除した税引前利益のうち、明治安田の持分相当額を合算し、明治安田グループ内の内部取引の一部を相殺したもの

明治安田

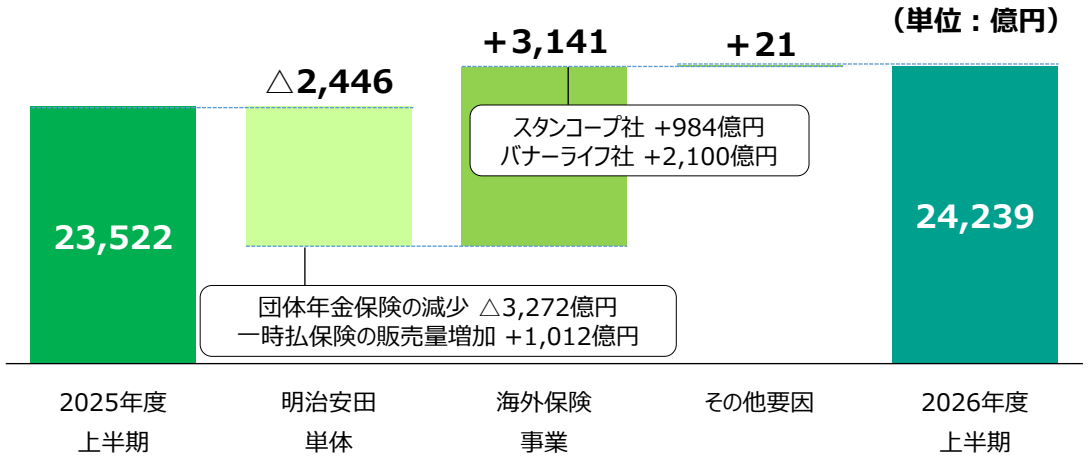
1．グループ保険料①

■ グループ保険料の状況

（単位：億円）

	2025年度 上半期	2026年度 上半期	前年同期比
グループ保険料（除く再保険収入）（注1）	23,522	24,239	+3.0%
うち海外保険事業等（注2）	3,419	6,583	+92.5%
うち海外保険事業	3,324	6,465	+94.5%
うちスタンコープ社	3,230	4,215	+30.5%
うちバナーライフ社	—	2,100	—
グループ保険料（注3）	23,557	25,114	+6.6%

■ グループ保険料（除く再保険収入）の主な増減要因



○ グループ保険料（除く再保険収入）は、明治安田単体における円貨建一時払養老保険の販売が好調なことや、海外保険事業の貢献を主因に、前年同期から3.0%の増収

○ 海外保険事業は、バナーライフ社や、スタンコープ社によるオールステート社の団体保険事業の買収効果により、前年同期から94.5%の増収（過去最高値）

（注1）「グループ保険料(除く再保険収入)」は、「グループ保険料」から再保険収入（2025年度は明治安田単体の再保険収入）を除いたもの

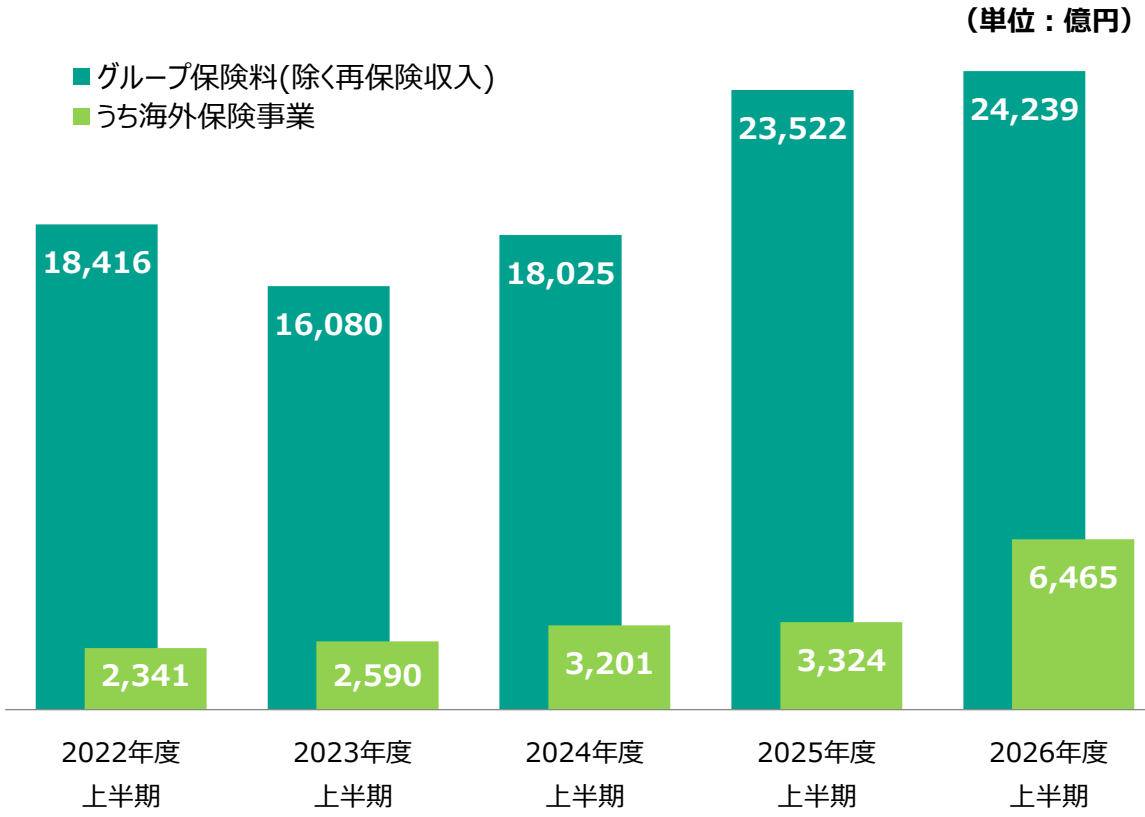
（注2）海外保険事業等は、明治安田単体以外の合算。なお、海外の子会社等は決算日が明治安田単体と3ヵ月ずれるため、上半期グループ業績への反映期間は1月から6月までの6ヵ月間

（注3）「グループ保険料」は、連結損益計算書上の保険料等収入。海外保険会社の保険料等収入の算定方法について、 2025年度までは保険料から再保険料を差し引いていたが、2026年度から再保険料を差し引かずに再保険収入を加算する方法に改正

明治安田

1．グループ保険料②

■ グループ保険料（除く再保険収入）の推移



- ○ グループ保険料（除く再保険収入）は、前年同期を上回る水準
- ○ 海外保険事業も、バナーライフ社の買収効果の発現等により、過去最高値を更新

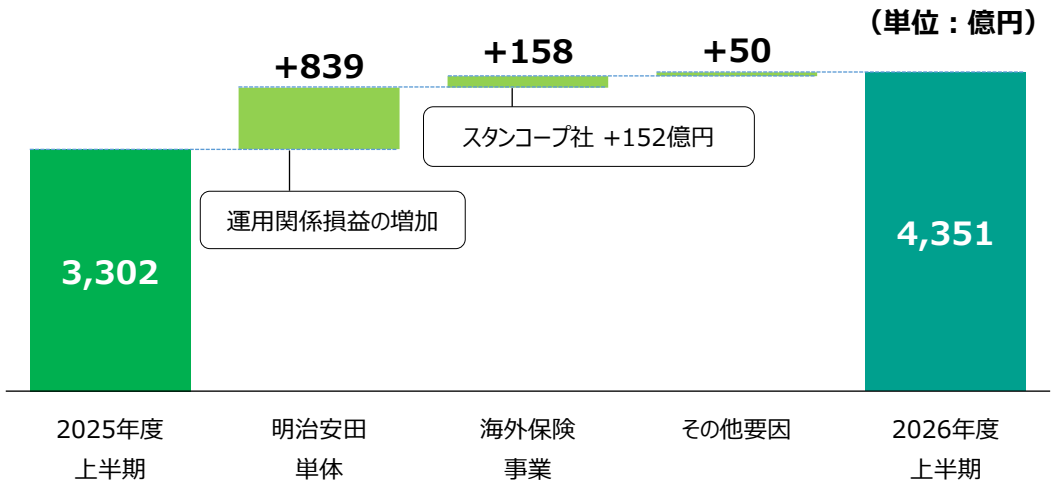
明治安田

2．グループ業務利益①

■ グループ業務利益の状況

	2025年度 上半期	2026年度 上半期	前年同期比
グループ業務利益（注1）	3,302	4,351	+31.8%
うち海外保険事業等（注2）	721	899	+24.8%
うち海外保険事業	702	861	+22.6%
うちスタンコープ社	559	712	+27.3%
うちバナーライフ社	—	81	—

■ グループ業務利益の主な増減要因



○ グループ業務利益は、明治安田単体における運用関係損益の増加を主因に、前年同期から31.8%の増益（過去最高値）

○ 海外保険事業は、バナーライフ社や、スタンコープ社によるオールステート社の団体保険事業の買収効果により、前年同期から22.6%の増益（過去最高値）

（注1）「グループ業務利益」は、明治安田単体の基礎利益から標準責任準備金の積み増し・戻し入れの影響を除いた単体の業務利益に、連結される子会社および子法人等ならびに持分法適用の関連法人等のキャピタル損益等を控除した税引前利益のうち、明治安田の持分相当額を合算し、明治安田グループ内の内部取引の一部を相殺したもの

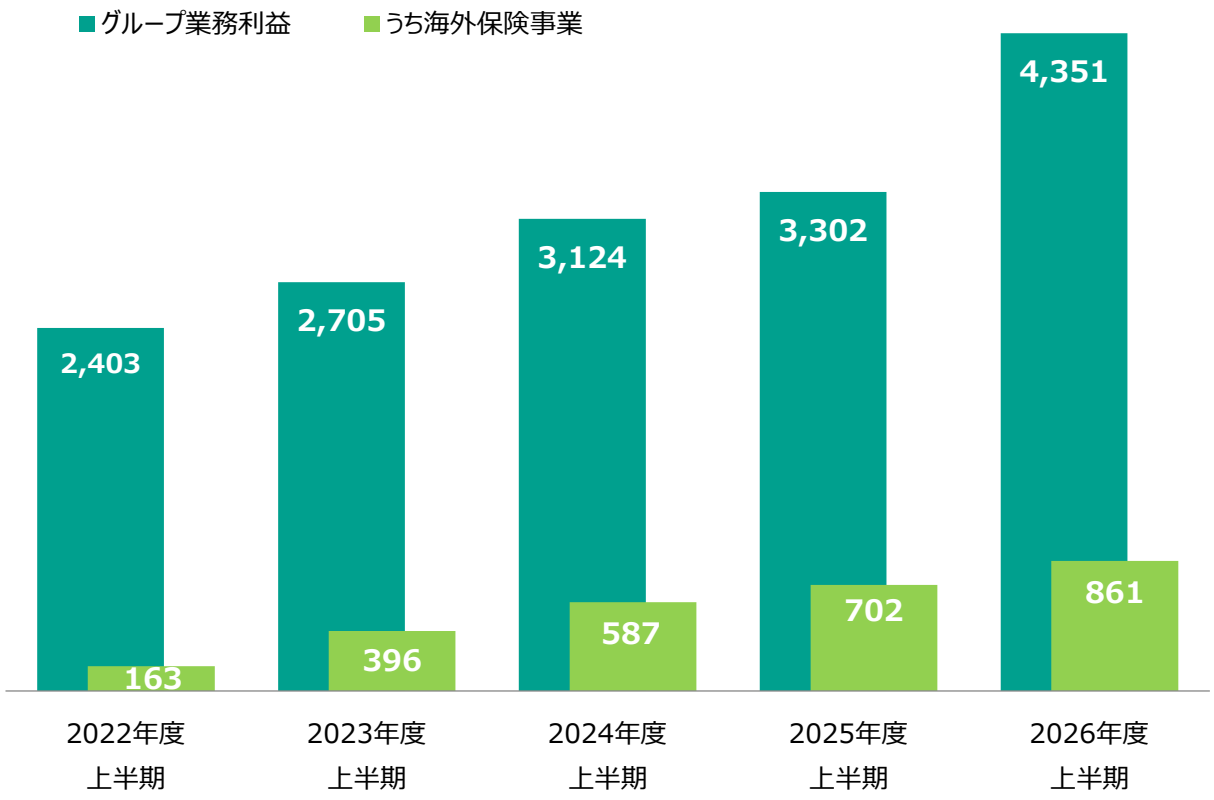
（注2）海外保険事業等は、明治安田単体以外の合算。なお、海外の子会社等は決算日が明治安田単体と3ヵ月ずれるため、上半期グループ業績への反映期間は1月から6月までの6ヵ月間

明治安田

2．グループ業務利益②

■ グループ業務利益の推移（注）

（単位：億円）



○ グループ業務利益は、上半期業績で過去最高値を更新

○ 海外保険事業も、買収等を通じて着実に成長を取り込み、過去最高値を更新

（注）過年度分も「グループ業務利益」の数値に引き直し

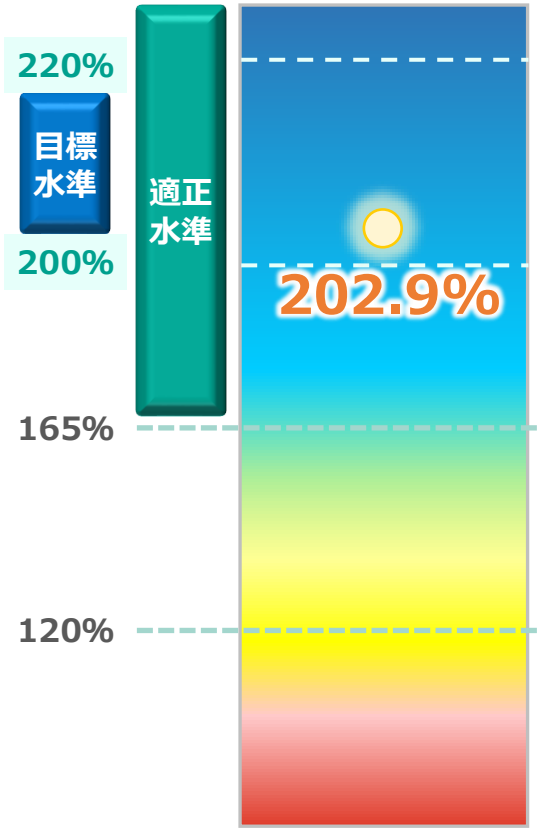
明治安田

3．健全性指標

■ グループＥＳＲについて

当社は健全性指標であるグループＥＳＲを、標準モデルＥＳＲ（注1）と内部モデルＥＳＲ（注2）のうち低い方と定め、健全性の水準に応じてご契約者配当等の経営判断を実施

グループＥＳＲの水準 ＜ＥＳＲ水準に応じたご契約者配当の考え方＞



・安定的なご契約者配当を維持
・ＥＳＲが220%を安定的に超過する見通しの場合、さらなるご契約者配当を検討・実施

・ご契約者配当の確実なお支払いに向け、リスク削減等にかかる取組み・対応を検討・実施

・健全性の確保に向けた内部留保を優先し、ご契約者配当の水準の引き下げも含めて検討・対応

○ グループＥＳＲは202.9%と、内外金利上昇等の影響により前年度末から低下したものの、引き続き高い水準を維持

○ 今後も健全性の確保を前提に、企業価値の持続的向上と安定的なご契約者配当の還元に取組み

（注1）金融庁が保険会社の監督に活用する健全性指標（法令上の名称は「ソルベンシー・マージン比率」）であり、業界共通の基準に基づいた標準的なモデルによるＥＳＲ
（注2）当社の事業実態を反映した内部モデルによるＥＳＲ

標準モデルＥＳＲ	内部モデルＥＳＲ
210.5%	202.9%

明治安田

４．連結損益計算書･連結貸借対照表

連結損益計算書（要約）

（単位：億円）

	2026年度上半期	前年同期比
経常収益　（A）	37,920	+7.4%
うち保険料等収入	25,114	+6.6%
うち資産運用収益	11,938	+8.2%
経常費用　（B）	40,585	+17.2%
うち保険金等支払金	23,300	+21.3%
うち責任準備金等繰入額	1,332	△69.6%
うち資産運用費用	9,786	+56.3%
うち事業費	4,846	+29.8%
経常利益(△は経常損失)(A－B)	△2,664	－
特別損益（注）	3,398	+4,478.2%
法人税等合計	7	△91.2%
親会社に帰属する中間純剰余	717	+8.9%

（注）特別損益は、債券の入替えに伴うキャピタル損を理由とした価格変動準備金の取り崩し（3,433億円）により、前年同期比で大きく増加

連結貸借対照表（要約）

（単位：億円）

	2026年度上半期末	前年度末差
資産の部合計	602,972	+11,986
うち現預金･コールローン	10,205	△1,335
うち有価証券	480,868	+11,838
うち貸付金	60,887	+917
うち有形固定資産	11,138	+477
うち無形固定資産	11,885	△427
負債の部合計	535,105	+11,550
うち保険契約準備金	453,699	+9,439
うち責任準備金	440,507	+8,527
うち社債	13,435	+455
うち価格変動準備金	8,015	△3,432
純資産の部合計	67,866	+436
うち基金･基金償却積立金	9,800	－
うち連結剰余金	559	△1,118
うちその他有価証券評価差額金	51,098	+1,396

明治安田

1．保険料等収入

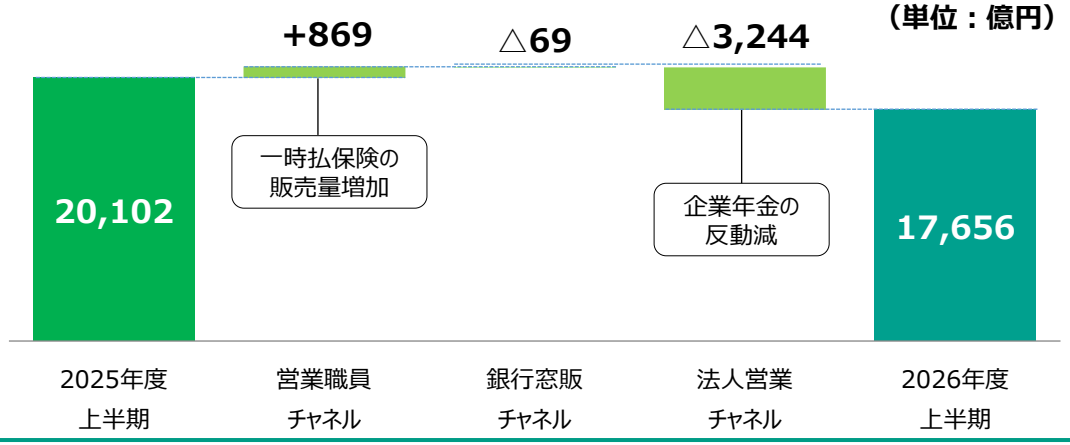
■ 保険料等収入の状況

（単位：億円）

	2025年度上半期	2026年度上半期	前年同期比
保険料収入	20,102	17,656	△12.2%
うち個人保険・個人年金保険	12,032	12,834	+6.7%
うち営業職員チャネル	10,235	11,104	+8.5%
うち平準払保険	5,627	5,498	△2.3%
うち一時払保険	4,607	5,606	+21.7%
うち銀行窓販チャネル	1,617	1,548	△4.3%
うち団体保険	1,530	1,552	+1.5%
うち団体年金保険	6,390	3,118	△51.2%
保険料等収入（注）	20,137	17,809	△11.6%

■ 販売チャネル別の増減要因

（単位：億円）



○ 保険料収入は、2025年4月に引受再開した確定給付企業年金保険の受管の反動減を主因に、前年同期から12.2%の減収

○ 個人保険・個人年金保険は、営業職員チャネルにおける円貨建一時払養老保険の販売が好調なことを主因に6.7%の増収

（注）「保険料等収入」は、単体損益計算書上の保険料等収入のことで、保険料収入に再保険収入を加えたもの

明治安田

2．新契約年換算保険料（個人保険･個人年金保険）

■ 新契約年換算保険料の状況（個人保険･個人年金保険）

（単位：億円）

	2025年度上半期	2026年度上半期	前年同期比
新契約年換算保険料	841	959	+14.0%
うち営業職員チャネル	727	846	+16.5%
うち銀行窓販チャネル	108	106	△2.0%
保障性商品新契約年換算保険料（注1）	153	138	△9.8%
貯蓄性商品新契約年換算保険料（注2）	634	777	+22.5%
第三分野新契約年換算保険料（注3）	180	157	△12.9%

○ 新契約年換算保険料は、営業職員チャネルにおける円貨建一時払養老保険の販売が好調なことを主因に、前年同期から14.0%の増加

（注1）ベストスタイル等の総合保障型保険、医療･介護保険等の保障性商品を対象
（注2）終身保険、年金保険、養老保険等を対象
（注3）第三分野は、医療保障給付、生前給付保障給付、保険料払込免除給付等に該当する部分を計上

明治安田

3．保有契約年換算保険料（個人保険･個人年金保険）

■ 保有契約年換算保険料の状況（個人保険･個人年金保険）

（単位：億円）

	2025年度末	2026年度上半期末	前年度末比
保有契約年換算保険料	21,440	21,575	+0.6%
うち営業職員チャネル	16,515	16,788	+1.7%
うち銀行窓販チャネル	4,483	4,348	△3.0%
保障性商品保有契約年換算保険料（注1）	6,101	6,081	△0.3%
貯蓄性商品保有契約年換算保険料（注2）	14,380	14,572	+1.3%
第三分野保有契約年換算保険料（注3）	5,211	5,214	+0.1%

○ 保有契約年換算保険料は、営業職員チャネルにおける円貨建一時払養老保険の販売が好調なことを主因に、前年度末から0.6%増加

（注1）ベストスタイル等の総合保障型保険、医療･介護保険等の保障性商品を対象
（注2）終身保険、年金保険、養老保険等を対象
（注3）第三分野は、医療保障給付、生前給付保障給付、保険料払込免除給付等に該当する部分を計上

明治安田

4．保有契約高（団体保険･団体年金保険）

■ 保有契約高の状況（団体保険･団体年金保険）

（単位：億円）

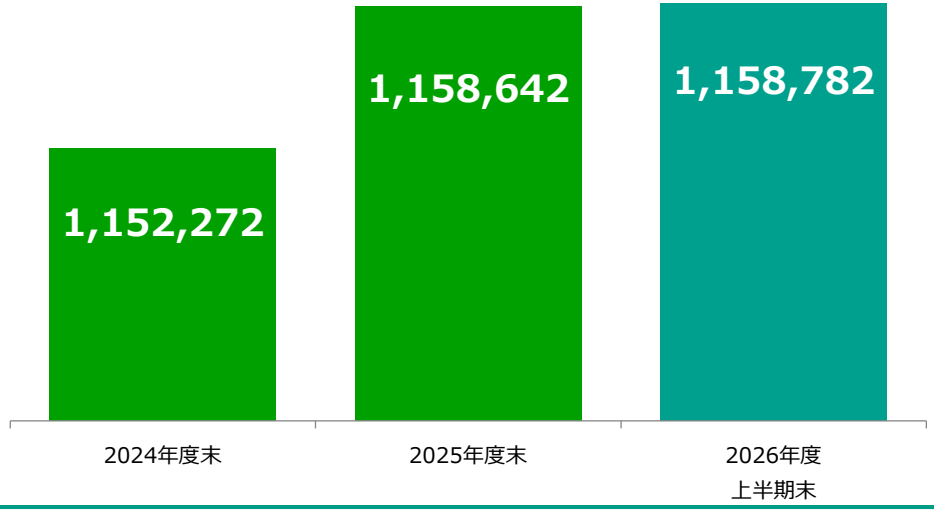
	2025年度末	2026年度上半期末	前年度末比
団体保険	1,158,642	1,158,782	+0.0%
（国内グループ）（注1）	1,184,399	1,185,512	+0.1%
団体年金保険	82,236	82,470	+0.3%
（国内グループ）（注2）	94,000	95,796	+1.9%

○ 団体保険は115兆8,782億円と前年度末から保有を拡大し、引き続き業界トップシェアを堅持

（注1）明治安田単体および明治安田トラスト生命の合計
（注2）明治安田単体および明治安田アセットマネジメントの合計

■ 団体保険の保有契約高の推移

（単位：億円）



明治安田

5．業務利益

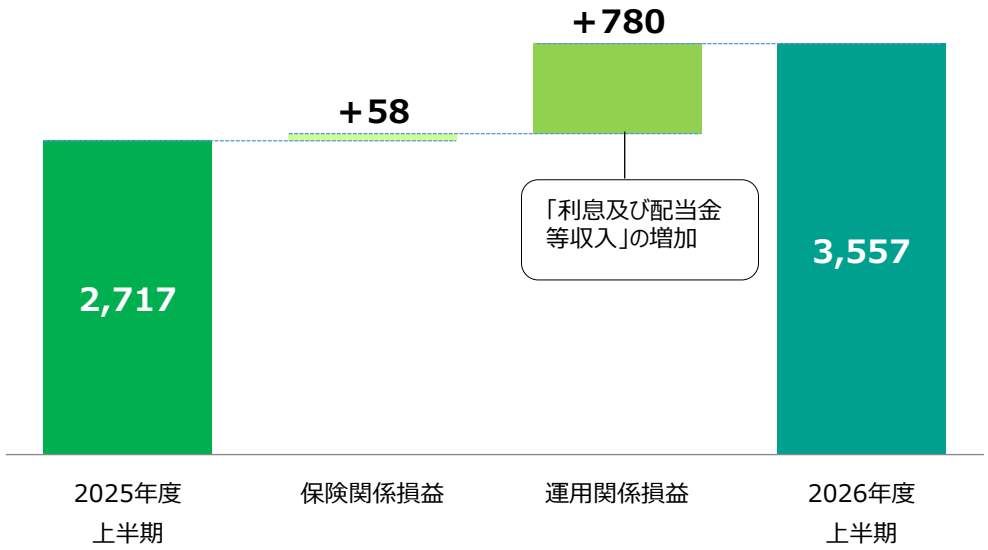
■ 業務利益の状況

（単位：億円）

	2025年度 上半期	2026年度 上半期	前年同期比
業務利益（注1）	2,717	3,557	+30.9%
保険関係損益（注1,2）	1,399	1,458	+4.2%
運用関係損益（注1,2）	1,318	2,099	+59.2%

■ 業務利益の主な増減要因

（単位：億円）



- ○ 業務利益は、運用関係損益の増加を主因に、前年同期から30.9%の増益（過去最高値）
- ○ 保険関係損益は、前年を上回る水準を確保
- ○ 運用関係損益は、「利息及び配当金等収入」の増加等により、前年同期から59.2%の増益

（注1）業務利益は明治安田単体の基礎利益から標準責任準備金積み増し・戻し入れの影響を除いたもの。内訳の保険関係損益、運用関係損益も同様

（注2）運用による収益のうち、保険料の算定にあたり、あらかじめ想定している部分については、保険販売の効果として、「運用関係損益」ではなく「保険関係損益」において認識

明治安田

6．資産運用収支

■ 資産運用収支の状況

（単位：億円）

	2025年度上半期	2026年度上半期	前年同期差
資産運用収支（全社）	4,365	1,323	△ 3,042
資産運用収支（一般勘定）	4,033	995	△ 3,038
資産運用収益	9,646	9,467	△ 178
利息及び配当金等収入	6,509	6,842	+ 333
有価証券売却益	2,846	2,280	△ 566
有価証券償還益	273	300	+ 26
為替差益	-	-	-
資産運用費用	5,612	8,471	+ 2,859
有価証券売却損	2,784	4,102	+ 1,317
有価証券評価損	363	1,004	+ 641
有価証券償還損	0	0	△ 0
金融派生商品費用	1,802	2,005	+ 202
為替差損	90	742	+ 651

○ 資産運用収支（一般勘定）は前年同期から3,038億円の減少

○ 円安や円建債券の入替え等により利息及び配当金等収入は前年同期から増加したものの、円建債券の売却損等により資産運用費用が増加

【参考】2026年度上半期の運用環境

	2026年度上半期末	前年同期末差
ＴＯＰＩＸ	4,108.65	+ 971.05
日経平均株価（円）	66,753.72	+ 21,821.09
１０年国債利回り（%）	3.050	+ 1.405
米国１０年国債利回り（%）	5.285	+ 1.135
円相場（円／$）	157.35	+ 8.47
円相場（円／€）	178.34	+ 3.87

明治安田

７．含み損益、国内株式含み損益ゼロ水準

■ 一般勘定資産全体の含み損益

（単位：億円）

	2025年度末	2026年度上半期末	前年度末差
一般勘定資産全体の含み損益	56,034	54,516	△ 1,518
うち時価のある有価証券（注1）	48,806	48,019	△ 787
うち公社債	△ 21,618	△ 24,241	△ 2,623
うち国内株式	61,417	68,777	+ 7,360
うち外国証券	7,094	1,266	△ 5,828
うち不動産	6,950	7,005	+ 54

○ 一般勘定資産全体の含み損益は、国内外の株価が上昇した一方、国内外の金利上昇等により、債券の含み損が拡大したことで、前年度末から1,518億円の減少

（注1）有価証券には、金融商品取引法上の有価証券として取り扱うことが適当と認められるもの等を含む
（注2）日経平均株価ベースでは11,500円程度

■ 国内株式含み損益ゼロ水準

仮に当社ポートフォリオがＴＯＰＩＸにフル連動するとした場合

	2025年度末	2026年度上半期末（注2）
ＴＯＰＩＸベース	660ポイント程度	710ポイント程度

明治安田

8．契約クオリティ（解約・失効・減額率、総合継続率）

■ 解約・失効・減額率 (注1) の状況（個人保険・個人年金保険）

（単位：%）

	2025年度上半期	2026年度上半期	前年同期差
個人保険・個人年金保険	2.72	2.83	+0.11ポイント
うち主力商品 (注2)	2.42	2.24	△0.18ポイント

■ 総合継続率 (注3) の状況（個人保険・個人年金保険）

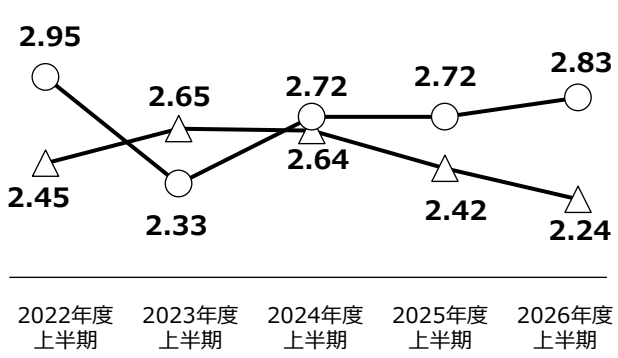
（単位：%）

	2025年度上半期	2026年度上半期	前年同期差
13月目総合継続率	94.1	94.6	+0.5ポイント
25月目総合継続率	87.7	87.5	△0.2ポイント
61月目総合継続率	70.3	68.2	△2.1ポイント

■ 解約・失効・減額率の推移

（単位：%）

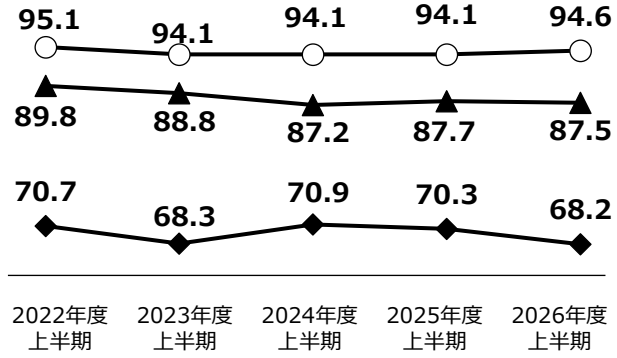
○個人保険・個人年金保険　△うち主力商品



■ 総合継続率の推移

（単位：%）

○13月目総合継続率　▲25月目総合継続率　◆61月目総合継続率



○ 解約・失効・減額率は、銀行窓販チャネルの解約増加を主因として、前年同期から上昇しているものの、主力商品は前年同期から改善し、良好な水準

（注1）年度始保有契約年換算保険料に対する、解約・失効・減額年換算保険料から復活年換算保険料を控除した金額の割合
（注2）「ベストスタイル」および「L.A.」における解約・失効・減額率
（注3）総合継続率は、契約高ベースにて算出

明治安田

1．スタンコープ社の保険料収入、業務利益相当額の状況

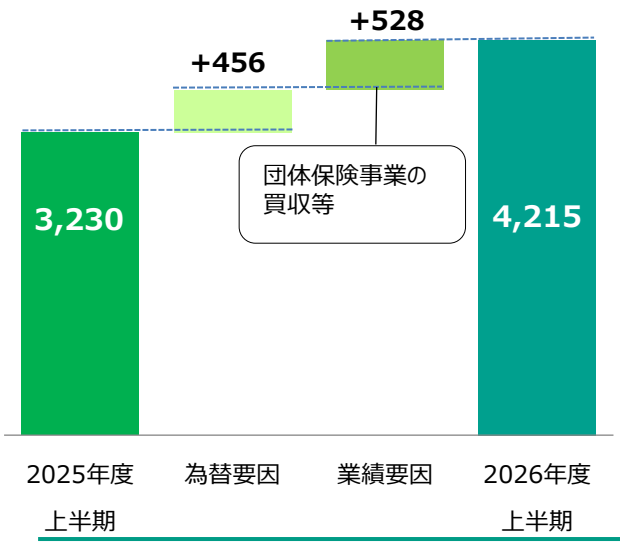
■ 保険料収入、業務利益相当額の状況（注1）

（単位：億円）

	2025年度 上半期	2026年度 上半期	前年同期比（注4）
保険料収入（注2）	3,230	4,215	+30.5%
業務利益相当額（注3）	559	712	+27.3%

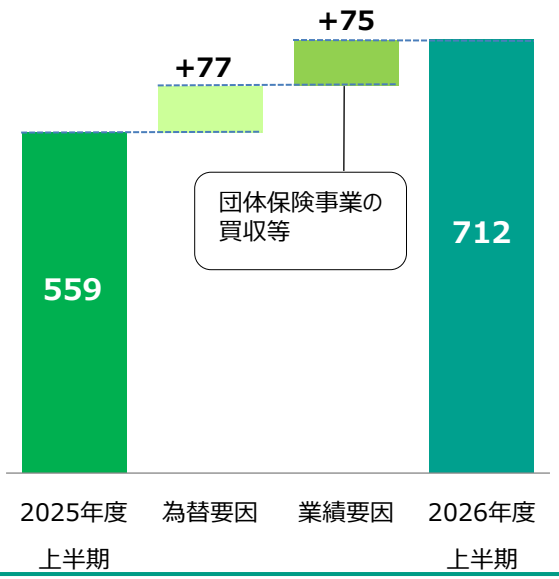
■ 保険料収入の主な増減要因

（単位：億円）



■ 業務利益相当額の主な増減要因

（単位：億円）



○ 保険料収入は、オールステート社の任意加入型団体保険事業の買収効果の発現により、前年同期から30.5%の増収

○ 業務利益相当額は、オールステート社の任意加入型団体保険事業の買収効果の発現や、給付率の下振れ等により、前年同期から27.3%の増益

※2025年4月に買収完了したオールステート社は、2025年度上半期からグループ業績に反映。ただし、2025年度上半期の反映期間は4月から6月の3ヵ月間

（注1）決算日が明治安田単体と3ヵ月ずれるため、グループ業績への反映期間は1月から6月までの6ヵ月間
（注2）「保険料収入」は、「保険料等収入」から再保険収入を除いたもの
（注3）業務利益相当額は、税引前利益からキャピタル損益や買収会計に伴う無形資産償却費用等を控除したもの
（注4）現地通貨ベースでの前年同期比は、保険料収入+16.4%、業務利益相当額+13.5%

※2025年度上半期は2025年6月末の為替レート（1米ドル= 144.81円）、2026年度上半期は2026年6月末の為替レート（1米ドル= 162.39円）で円換算

明治安田

2．損益計算書・貸借対照表（スタンコープ社）（注１）

損益計算書（要約）

（単位：億円）

	2026年度上半期（注２）	前年同期比（注３）
経常収益　（A）	6,038	+31.5%
うち保険料等収入	4,294	+32.9%
うち資産運用収益	1,453	+27.0%
経常費用　（B）	5,894	+32.8%
うち保険金等支払金	2,793	+32.2%
うち責任準備金等繰入額	99	+32.4%
うち資産運用費用	958	+47.6%
うち事業費	1,760	+27.5%
経常利益（A－B）	144	△7.7%
特別損益	－	－
法人税等合計	40	△6.7%
中間純利益	103	△4.4%

貸借対照表（要約）

（単位：億円）

	2026年度上半期末（注２）	前年度末差（注4）
資産の部合計	94,818	+5,038
うち現預金・コールローン	1,826	△276
うち有価証券	56,102	+5,755
うち貸付金	21,641	+971
うち有形固定資産	434	+44
うち無形固定資産	7,724	△88
負債の部合計	80,670	+5,019
うち保険契約準備金	77,079	+6,484
うち責任準備金	69,328	+6,298
純資産の部合計	14,148	+18
うち資本剰余金	13,722	+492
うち利益剰余金	663	△283
うちその他有価証券評価差額金	△955	△223

（注1）米国の会計基準で作成した財務諸表を、日本の会計基準に準じて組み替え
（注2）2026年6月末の為替レート（1米ドル= 162.39円）で円換算
（注3）前年同期値は2025年6月末の為替レート（1米ドル= 144.81円）で円換算
（注4）前年度末値は2025年12月末の為替レート（1米ドル= 156.56円）で円換算

明治安田

3．バナーライフ社の保険料収入、業務利益相当額の状況

■ 保険料収入、業務利益相当額の状況（注1）

（単位：億円）

	2025年度 上半期	2026年度 上半期	前年同期比
保険料収入（注2）	-	2,100	-
業務利益相当額（注3）	-	81	-

○ バナーライフ社は、主力商品の定期保険事業の新契約販売が好調に推移

※2026年2月に買収完了したバナーライフ社は、2026年第1四半期からグループ業績に反映

（注1）決算日が明治安田単体と3ヵ月ずれるため、グループ業績への反映期間は1月から6月までの6ヵ月間
（注2）「保険料収入」は、「保険料等収入」から再保険収入を除いたもの
（注3）業務利益相当額は、税引前利益からキャピタル損益等を控除したもの

※2026年度上半期は2026年6月末の為替レート（1米ドル= 162.39円）で円換算

明治安田

４．損益計算書・貸借対照表（バナーライフ社）（注１）

損益計算書（要約）

（単位：億円）

	2026年度上半期（注２）
経常収益　（Ａ）	3,701
うち保険料等収入	2,613
うち資産運用収益	786
経常費用　（Ｂ）	3,624
うち保険金等支払金	2,679
うち資産運用費用	414
うち事業費	519
経常利益（Ａ－Ｂ）	76
特別損益	－
法人税等合計	16
中間純利益	60

貸借対照表（要約）

（単位：億円）

	2026年度上半期末（注２）	前年度末差（注3）
資産の部合計	27,460	+1,944
うち現預金・コールローン	122	+112
うち有価証券	24,388	+1,543
うち貸付金	1,911	△16
うち有形固定資産	68	+0
うち無形固定資産	149	+4
負債の部合計	25,727	+934
うち保険契約準備金	20,942	+605
うち責任準備金	20,942	+653
純資産の部合計	1,733	+1,009
うち資本金	823	+30
うち資本剰余金	4,107	+615
うち利益剰余金	△3,404	+346
うちその他有価証券評価差額金	△193	△11

（注1）国際財務報告基準で作成した財務諸表を、日本の会計基準に準じて組み替え
（注2）2026年6月末の為替レート（1米ドル= 162.39円）で円換算
（注3）前年度末値は2025年12月末の為替レート（1米ドル= 156.56円）で円換算

明治安田

２０２６年度 業績見通し

※当社グループが現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づき算出しており、今後の環境等により変動の可能性があります。

■ グループ保険料の見通し

	2026年度 見通し	前年度比	2025年度 実績
グループ保険料（除く再保険収入）	50,000億円程度	増加	44,854億円
うち海外保険事業	14,500億円程度	増加	7,547億円

■ グループ業務利益の見通し

	2026年度 見通し	前年度比	2025年度 実績
グループ業務利益	8,000億円程度	増加	7,602億円
うち海外保険事業	1,600億円程度	横ばい	1,674億円

○ グループ保険料は「増収」の見通しを維持

○ グループ業務利益は、円建債券の入替による利回り向上や、円安・株式の増配等に伴う運用関係損益の増加を主因とした上半期業績の上振れをふまえ、「横ばい」から「増益」に見通しを変更

明治安田

経営目標の進捗状況（２０２６年度上半期実績）

		中期経営計画 目標	2026年度上半期 実績	前年度比/差 (注3)
企業価値	グループサープラス	年平均5%成長 (10年計画をスタートした 2020年度始比)	132,900億円	+3,900億円
健全性	グループＥＳＲ	安定的に165%以上 (中期的に200～220% への回帰をめざす)	202.9%	△5.8ポイント
	オンバランス自己資本	4.5兆円以上	4.7兆円	△1,883億円
収益性	グループ業務利益	安定的に 6,000億円程度を確保	4,351億円	+31.8%
成長性	グループ保険料（除く再保険収入）	4.0兆円以上	2.4兆円	+3.0%
	お客さま数	1,240万人	1,226万人	+0.2万人
	保有契約年換算保険料〔保障性商品〕(注1)	6,150億円	6,081億円	△0.3%
	ＭＹリンクコーディネーター等在籍者数 (注2)	37,000人	38,123人	+391人

（注1）ＭＹリンクコーディネーター等（営業職員）チャネル・法人営業チャネルで取り扱う保障性商品（ベストスタイル等の総合保障型保険、医療・介護保険等）を対象
（注2）中期経営計画目標は2027年4月1日時点。2026年度上半期実績は2026年10月1日時点
（注3）「ＭＹリンクコーディネーター等在籍者数」は2026年4月1日時点との差、それ以外の指標は、前年同期比または前年度末比・差